

## 三沢御房御返事

文永一二年二月一日 五四歳

佐渡国の行者数多此の所まで下向ゆへに、今の法門説き聞かせ候えば、未来までの仏種になる事、是皆あまた積尊げこうの法恩ありがたし。越後にて此の歌詠えいじ候ゆへ書き送り候なり。

おのづからよこしまに降る雨はあらし 風こそ夜の窓をうつらめ

二月十一日